

## 2016（平成28）年度 研究所報告

## 1. 組織（2016年6月1日現在）

所長	松川 節
主事	松浦 典弘
委員	乾 源俊（大学院文学研究科長）
	滝川 義弘（教育研究支援部事務部長）
	八木 孝枝（教育研究支援課長）
	阿部 利洋（教授・社会学）
	織田 顕祐（教授・仏教学）
	古川 哲史（教授・歴史学／比較文化・社会論）
	赤澤 清孝（准教授・公共経営学）
	藤田 義孝（准教授・フランス文学・フランス文化）
	藤原 正寿（短期大学部准教授・真宗学）
	新田 智通（講師・仏教学）

## 2. 研究組織

〔指定研究〕

**教如上人研究**

研究課題	真宗大谷派・東本願寺開祖である教如上人に関わる史料の調査と研究
研究代表者	草野 顕之
研究員	草野 顕之（教授・日本仏教史学）
	平野 寿則（准教授・日本近世史・近世仏教史・真宗史）
	東館 紹見（教授・日本仏教史）
	福島 栄寿（准教授・日本仏教史・近代日本思想史）
	川端 泰幸（講師・日本中世史）
嘱託研究員	大桑 齊（本学名誉教授）
	山田 哲也（裏千家学園講師・本学非常勤講師）
研究補助員（RA）	老泉 量（博士後期課程第1学年）

**清沢満之研究**

研究課題	清沢満之の生涯と思想の研究を更に進め、その成果を『清沢満之全集』の補遺として、発刊する。
研究代表者	藤原 正寿
研究員	藤原 正寿（短期大学部准教授・真宗学）
	加来 雄之（教授・真宗学）

- 一楽 真（教授・真宗学）  
 村山 保史（教授・西洋哲学・日本哲学）  
 西本 祐攝（短期大学部講師・真宗学）  
 嘱託研究員 安富 信哉（本学名誉教授）  
 名畑直日兎（真宗大谷派教学研究研究所研究員）  
 研究補助員（RA） 井上 泰之（博士後期課程第2学年）  
 荒金 拓（博士後期課程第2学年）（2016年6月1日～）

### 国際仏教研究

- 研究課題 諸外国における仏教研究の動向の把握と資料の収集・整理・公開  
 研究代表者 井上 尚実  
 研究員 井上 尚実（短期大学部教授・真宗学）  
 Robert F. Rhodes（教授・仏教学）  
 Michael J. Conway（講師・真宗学）  
 藤田 義孝（准教授・フランス文学・フランス文化）  
 井黒 忍（准教授・東洋史学）  
 嘱託研究員 Michael Pye（マールブルク大学名誉教授）  
 James C. Dobbins（オーバーリン大学教授）  
 Mark L. Blum（カリフォルニア大学バークレー校教授）  
 Paul Watt（早稲田大学留学センター教授）  
 羽田 信生（毎田周一センター所長・本学非常勤講師）  
 阿満 道尋（アラスカ州立大学アンカレッジ校准教授）  
 研究補助員（RA） 梶 哲也（博士後期課程第3学年）  
 味村 考祐（博士後期課程第3学年）

### 西藏文献研究

- 研究課題 チベット語文献及びバリー語貝葉写本のデータベース化  
 研究代表者 三宅 伸一郎  
 研究員 三宅 伸一郎（准教授・チベット学）  
 上野 牧生（短期大学部講師・仏教学）  
 嘱託研究員 武田 和哉（准教授・歴史学・考古学・人文情報学）  
 白館 戒雲（本学名誉教授）  
 U. Erdenebat（モンゴル国立大学総合科学部教授）  
 清水 洋平（本学非常勤講師）  
 高本 康子（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター共同研究員）  
 伴 真一郎（2015年度西藏文献研究嘱託研究員）  
 舟橋 智哉（2015年度西藏文献研究嘱託研究員）  
 山口 欧志（奈良文化財研究所研究員）（2016年10月1日～）

研究補助員 (RA) LAMAO ZHUOMA (博士後期課程第3学年)  
ARILDII BURMAA (博士後期課程第2学年)

### ベトナム仏教研究

研究課題 ベトナム社会科学アカデミー宗教研究院との共同研究  
研究代表者 織田 顕祐  
研究員 織田 顕祐 (教授・仏教学)  
浅見直一郎 (教授・東洋史学)  
采翠 晃 (准教授・仏教学)  
嘱託研究員 箕浦 暁雄 (准教授・仏教学)  
桃木 至朗 (大阪大学教授)  
大西 和彦 (ベトナム社会科学アカデミー宗教研究院客員研究員)  
福島 重 (本学非常勤講師)

### 東京分室指定研究

研究課題 宗教的言語の受容／形成についての総合的研究—哲学的・宗教学的・人類学的視点から—  
研究代表者 池上 哲司  
研究員 池上 哲司 (本学名誉教授)  
松澤 裕樹 (PD 研究員・西洋哲学)  
田崎 郁子 (PD 研究員・特別研究員・文化人類学)  
藤原 智 (PD 研究員・真宗学)

〔資料室〕

### 大谷大学史資料室

研究課題 大学史関係資料の収集・整理  
室長 松浦 典弘 (研究所主事・准教授・東洋史学)  
嘱託研究員 戸次 顕彰 (本学非常勤講師)  
研究補助員 (RA) 松岡 智美 (博士後期課程第3学年)

### 東本願寺海外布教資料室

研究課題 大谷大学図書館所蔵「東本願寺旧蔵資料」海外布教関係部分の整理  
室長 桂華 淳祥 (教授・東洋史学)  
嘱託研究員 松浦 典弘 (研究所主事・准教授・東洋史学)  
李 曼寧 (2015年度東本願寺海外布教資料室嘱託研究員)

### デジタル・アーカイブ資料室

研究課題 大谷大学所蔵貴重資料のデジタル・アーカイブの構築

室 長 松浦 典弘（研究所主事・准教授・東洋史学）

〔特別プロジェクト〕

**大正新脩大藏経テキストデータベース（SAT）現代語訳研究**

研究課題 『歎異抄』の現代語訳

研究代表者 井上 尚実（短期大学部教授・真宗学）

〔一般研究／共同研究〕

研究課題 スティラマティの俱舎論注釈書『真実義』梵文写本第一章の研究

研究代表者 小谷信千代

研究員 小谷信千代（本学名誉教授・特別研究員）

協同研究員 箕浦 暁雄（准教授・仏教学）

上野 牧生（短期大学部講師・仏教学）

研究課題 モンゴル国カラコルム博物館における歴史研究を基軸とした情報化と国際協働の推進

研究代表者 松川 節

研究員 松川 節（教授・モンゴル学）

協同研究員 清水奈都紀（奈良大学非常勤講師）

研究課題 紋章との比較による系譜の図像化規則とその構造分析

研究代表者 柴田みゆき

研究員 柴田みゆき（教授・情報処理学）

三浦誉史加（准教授・英文学・英米文化）

協同研究員 松浦 亨（北海道大学病院企画マネジメント部臨床教授）

杉山 正治（本学非常勤講師）

生田 敦司（本学非常勤講師）

清水 利明（一般財団法人比較法研究センター特別研究員）

横澤 大典（本学非常勤講師）

平塚 聡（立命館大学情報理工学研究科研修生）

齋藤 晋（NPO 法人国土利用再編研究所副理事長）

寺岡 茂樹（中世日本研究所女性仏教文化史研究センター研究員）

研究課題 アブラナ科植物の伝播・栽培・食文化史に関する領域融合的研究

研究代表者 武田 和哉

研究員 武田 和哉（准教授・歴史学・考古学・人文情報学）

三宅伸一郎（准教授・チベット学）

協同研究員 渡辺 正夫（東北大学大学院生命科学研究所教授）

鳥山 欽哉 (東北大学大学院農学研究科教授)  
 吉川 真司 (京都大学大学院文学研究科教授)  
 横内 裕人 (京都府立大学文学部准教授)  
 江川 式部 (明治大学商学部兼任講師)  
 等々力政彦 (2015年度一般研究武田班②協同研究員)  
 清水 洋平 (本学非常勤講師)

研究課題 文化地質学：人と地質学の接点を求めて  
 研究代表者 鈴木 寿志  
 研究員 鈴木 寿志 (教授・地球環境学)  
 廣川 智貴 (准教授・ドイツ文学)  
 協同研究員 清水 洋平 (本学非常勤講師)  
 長 秋雄 (国立研究開発法人産業技術総合研究所主任研究員)  
 研究協力員 (支援) 石橋 弘明 (本学聴講生)

研究課題 ウェアラブル端末を用いた大学生の学習意欲喚起のための研究  
 研究代表者 上田 敏樹  
 研究員 上田 敏樹 (准教授・情報工学)  
 福田 洋一 (教授・仏教学)  
 柴田みゆき (教授・情報処理学)  
 酒井 恵光 (准教授・計算機科学)  
 高橋 真 (講師・比較認知科学)  
 協同研究員 平澤 泰文 (本学非常勤講師)

研究課題 モンゴルの世界遺産「大ブルカン・カルドゥン山」に関する学融合的研究  
 研究代表者 松川 節  
 研究員 松川 節 (教授・モンゴル学)  
 三宅伸一郎 (准教授・チベット学)

〔一般研究／個人研究〕

研究課題 移行期正義の社会的影響に関する比較社会学的研究  
 研究代表者 阿部 利洋 (教授・社会学)

研究課題 ハンス・リッps解釈学におけるパトスを基盤とした知識教授理論の研究  
 研究代表者 田中 潤一 (准教授・教育学・教育哲学)

- 研究課題 初期チベット論理学成立史解明のための基礎研究  
研究代表者 福田 洋一（教授・仏教学）
- 研究課題 前近代中国黄河中流域における水利権と水利組織  
研究代表者 井黒 忍（准教授・東洋史学）
- 研究課題 口承と文献学の融合に基づくチベット後期中観思想研究  
研究代表者 西沢 史仁（特別研究員）
- 研究課題 ハイデッガー「黒ノート」の研究—「計算的思考」の分析を中心に  
研究代表者 田鍋 良臣（任期制助教・特別研究員）
- 研究課題 シュティフターとシュトルムの文学における「障がい児」像  
研究代表者 藤原 美沙（任期制講師）
- 研究課題 キリスト教聖書の翻訳に見られる現地語彙の選択とローカル社会の再編  
研究代表者 田崎 郁子（PD 研究員・特別研究員）
- 研究課題 再犯リスク低減と更生の基盤づくりを目指したピアサポート活動の試行的実践とその評価  
研究代表者 脇中 洋（教授・発達心理学・法心理学）
- 研究課題 『苔の衣』諸伝本の本文研究及び校本作成  
研究代表者 関本 真乃（任期制助教・特別研究員）
- 研究課題 現存大蔵経諸本をもちいた＜阿闍世王経＞漢訳諸本に関する文献学的研究  
研究代表者 宮崎 展昌（任期制助教・特別研究員）
- 研究課題 ジャイナ教の死生観に関する基礎的研究—断食死儀礼の規定を中心として  
研究代表者 堀田 和義（本学非常勤講師・特別研究員）
- 研究課題 キンギョを用いた質感の進化的起源の検討  
研究代表者 高橋 真（講師・比較認知科学）

### 3. 指定研究の動向

#### 教如上人研究

真宗本廟（東本願寺）の実質的な開祖ともいべき教如上人（永禄元年=1558～慶長19年=1614）の研究は、「大谷派なる精神」、大谷派存立の理念と存在理由を明らかにするという意義を有している。本研究班では、教如上人に関する史料の全面的・組織的な調査を実施し、それらを体系的に整理して、内外に成果を問うことを目標として活動を行ってきた。

#### 〈研究会〉

最終年度にあたる2016年度は、2回の研究会を実施した。2016年12月21日(水)の第11回研究会では、研究成果の現状確認と総括に向けて意見交換を行った。現状として、教如上人関係史料のデータ1,200点強が収集整理されていること、そのデータをもとにすると、真宗史・中近世移行期の社会史などに新たな知見が見いだせる可能性を確認したうえで、中間報告をまとめて3年間の活動の総括とすること、今後さらに研究班の活動を継続させていくことの必要性についても確認した。次に2017年2月8日(水)の第12回研究会では、工藤克洋氏より「戦国期の笠原本誓寺について—高田本誓寺調査史料—」と題する研究報告が行われた。これは、2016年に実施した上越市高田本誓寺の調査成果をもとにしたもので、本誓寺に残された戦国期の書状について、従来は後世の作であるとする研究などもあったが、今回の調査で撮影した画像などをもとに、あらためて検討を加えた結果、当該期の史料が多くあるとの見解が提示された。これによって、教如班による調査が、研究の新たな可能性を開くことに寄与できていることが確認された。

#### 〈調査〉

2016年度には、西念寺（山科区）・本誓寺（上越市）・光照寺（山科区）・萬因寺（山科区）・東光寺（下京区）・徳正寺（下京区）・妙蓮寺（福山市）の調査を実施した。

以上でひとまず3年の年限を終えたが、調査・研究はまだ必要である。また寺院の歴史・文化的側面の発見・活用に寄与できる可能性も高く、真宗総合研究所の研究班として活動を再び行えるように準備をしていきたい。

#### 清沢満之研究

本研究は清沢満之の生涯と思想の研究を進めることを目的としている。大谷大学編『清沢満之全集』（岩波書店、『全集』と略）の刊行以来、清沢研究や近代仏教史研究等の諸分野において『全集』は広く多くの研究者に読まれ、その研究の進展に大きく寄与している。2014年度に活動を再開した本研究では『全集』に未収録の文献を収集し、刊行することを主な目的としている。

本年度は、以下の3点を柱に研究を進めた。

- ① 新出清沢満之著述の収集、翻刻、校正
- ② 補遺編集に向けた研究会の開催
- ③ 新出清沢満之著述群の内容検討

清沢満之研究が収集してきた西方寺蔵清沢自筆稿の翻刻作業を継続するとともに、本年度まで新たに収集した文献の翻刻・校正を行った。本年度は三度の調査により新出文献を収集した。2016年11月11日に西方寺で『全集』未収録の清沢自筆書簡4点と、句仏上人の清沢宛書簡3点等の撮影。2017年2月20日に唯法寺で占部観順筆の清沢宛書簡（未開封、未郵送）を確認し撮影。2017年3月12、13日に東洋大学で開催された森岡清美著『真宗大谷派の革新運動—井上豊忠のライフヒストリー』書評会で、森岡氏に井上豊忠宛清沢自筆書簡（山形県長井市の井上豊忠自坊法讚寺蔵）の撮影データの提供について協議し、後日、ご提供いただいた。

2017年2月23日に星野靖二國學院大学准教授をお招きして公開研究会を開催。星野氏には『全集』未収録の清沢論稿を含む『経世博議』全号のデータをご提供いただいた。

本研究は本年度で3年の研究期間を終える。この3年間で、新出の清沢満之著述と認めることができる37点の文献を確認し内容検討の結果、32文献が『全集』掲載基準を満たすことを確認している。これらの中で森岡氏提供の文献を除いては2016年度末までに翻刻済みであり、併せて刊行に向けて構成案の検討を進めた。未発見の文献（清沢の日記等の記述による執筆情報はある）を含め、今後も新出文献が見出される可能性は極めて高いと考えられる。それらの点も踏まえると、『全集』の「補遺」ではなく「別巻」としての刊行が望ましい。概算で『全集』2巻分の文献を翻刻済である。今後、これらを順次刊行していくことが喫緊の課題である。

## 国際仏教研究

本研究は、諸外国における仏教を中心とした宗教研究の動向を把握するとともに、国際社会に対して本学の真宗・仏教研究を公開することを目的としている。本年度も英米班、ドイツ・フランス班、東アジア班の三班に分かれて研究活動を進めた。各班の研究成果の概要は以下の通りである。

〈英米班〉

### I. 翻訳研究

- (1) 『浄土の真宗』『宗門の歩み』英訳出版への協力

阿満道尋嘱託研究員（アラスカ大学アンカレッジ校、2017年からモンタナ大学）を中心に進めてきた大谷派教師課程教科書『浄土の真宗』の英訳が完成し、*An Introduction to Shinran's Pure Land Buddhism* (Shinshu Center of America, 2016) として北米開教区真宗センターから出版された。『宗門の歩み』については2017年度に継続。

- (2) 『歎異抄』翻訳研究プロジェクト

大谷大学真宗総合研究所とカリフォルニア大学バークレー校東アジア研究所および龍谷大学世界仏教文化研究センターの三機関が協定を結び、合同で『歎異抄』およびそれに関連する近世近代の文献（講録等）を英訳研究するプロジェクトを立ち上げた。今後5年間の予定で年2回（3月にバークレー、8月に京都で1回ずつ）合同ワークショップを開催し、最終的に2冊の研究書（注釈付き本文英訳と研究論文集）出版を目標とする。その第1回ワークショップが2017年3月24日から27日にバークレーで開催され、マイケル・コンウェイ研究員と公募で選ばれた真宗学科大学院生2名が参加した（\*詳細は『所報』70号所載の報告を参照）。

## II. 国際学会・シンポジウム

### (1) 国際学会への参加

2017年3月1日(水)～4日(土)、ミズーリ州カンザスシティーで開催された第114回 アメリカ哲学会中部学術大会 (American Philosophical Association Central Division Meeting) において、田中潤一准教授とマイケル・コンウェイ研究員が以下の研究発表を行なった。

- ① 田中潤一「仏教精神を教育することの可能性—田辺哲学の観点から」“The Possibility of Teaching the Spirit of Buddhism — From the Standpoint of Tanabe Philosophy —”
- ② マイケル・J・コンウェイ「曾我量深の思想における宿業と根源的責任」“Past Karma and Radical Responsibility in the Thought of Soga Ryōjin”

（\*詳細は『所報』70号所載の報告を参照）

### (2) シンポジウムの開催

2016年5月26日(木)・27日(金)の2日間、大谷大学メディアホールにおいてハンガリーのエトヴェシ・ロラード大学 (ELTE) 東アジア研究所との共催で第2回国際仏教シンポジウム「仏陀の言葉とその解釈 The Buddha's Words and Their Interpretations」を開催した。本学からは以下の9名が発表を行なった。

- ① 織田顕祐「釈尊観としての大乗経典—存在を通して言葉を読む—」“The Mahāyāna Sūtras as a View of Śākyamuni: Reading Words through Existence”
- ② 箕浦暁雄「経と論—仏陀の言葉を受けとめるということ—」“Sūtra and Abhidharma: Taking in the Buddha's Words”
- ③ 井上尚実「他力としての仏陀の言葉：“教示し、励まし、鼓舞し、喜悅せしむ”という表現」Expressive Phrase *saṃdarśayati samādāpayati samutejayati samprahorsayati*”
- ④ 上野牧生「世親の『釈軌論』における「仏陀のことばとその解釈」」“The Buddha's Words and Their Interpretations in Vasubandhu's *Vyākhyāyukti*”
- ⑤ 加来雄之「我、仏教と相応せり—『大無量寿経』と「優婆提舍」—」“I

Correspond to the Buddha's Teachings: The *Larger Sutra of Immeasurable Life and Upadeśa*"

- ⑥ ロバート・F・ローズ「天台解釈学」"Tiantai Hermeneutics"
- ⑦ マイケル・J・コンウェイ「道綽の創造的引用法について」"Daochuo's Creative Quotation Practices"
- ⑧ 藤嶽明信「第十八願文と成就文についての解釈—善導・法然・親鸞を通して—」"Interpretations of the Eighteenth Vow and Its Fulfillment Passage: In the Thought of Shandao, Hōnen, and Shinran"
- ⑨ 藤元雅文「仏陀の教説についての親鸞の視座—教の権実を中心に—」"Shinran's Viewpoint on the Buddha's Teaching: Centered on the True Teaching and Provisional Teachings"

（\*シンポジウムの詳細については『所報』69号所載のコンウェイ研究員による報告を参照）

(3) シンポジウム成果の出版準備

- ① *Cultivating Spirituality: A Modern Shin Buddhist Anthology* 出版記念シンポジウム成果出版

2015年6月に本学で開催された真宗近代教学アンソロジー英訳出版記念シンポジウムの成果を学術書として出版する計画を立て、編集作業を進めている。マーク・L・ブラム教授（囑託研究員）とマイケル・J・コンウェイ研究員の共同編集により欧米の大学出版から出すことを目指し、8月にコンウェイ研究員がバークレーに出張した（\*詳細は『所報』69号所載のコンウェイ研究員による報告を参照）。

- ② 国際仏教シンポジウム「仏陀の言葉とその解釈」（ELTE 東アジア研究所と共催）成果出版

2016年5月に開催されたシンポジウムの成果を出版するための作業を進めている。ELTEのハマル・イムレ教授と井上尚実研究員の共編で、2018年3月末までに出版の予定。

### Ⅲ. 公開講演会の開催

以下のような3回の公開講演会を開催した。

（会場はいずれも響流館3階マルチメディア演習室）

- (1) 2016年5月25日(木) 16:30~18:00  
 講師：ラズロ・ボルヒ氏 Prof. László Borhy (ELTE 人文学部長、ハンガリー)  
 講題：「ローマと初期ビザンチン芸術における天界と永遠の時間の表現について：ブリゲティオのローマ様式壁画の解釈」(Representation of celestial spheres and eternal time on vaults and domes in Roman and Early Byzantine art: Interpretation of a Roman Wall-Painting from Brigetio)
- (2) 2016年7月12日(火) 16:20~17:50

講師：ヤコブ・ザモルスキー氏 Dr. Jakub Zamorski (ヤギェウォ大学、ポーランド)

講題：「浄土の信者はなぜ唯識学を必要としているのか—東アジア仏教思想史における“近代教学”」(Why do Pure Land Buddhists need Consciousness-only? “Modern doctrinal studies” of Jōdo Shinshū in the history of East Asian Buddhist thought)

(＊講演会の詳細は『所報』69号所載の井上研究員による報告を参照)

(3) 2016年7月29日(金) 16:20～17:50

講師：ジェシカ・スターリング氏 Jessica Starling (ルイス・アンド・クラーク大学、アメリカ)

講題：「非尼僧非俗女：仏教界における宗教専門職の女性について」(Neither Nuns nor Laywomen: Female Religious Professionals in the Buddhist World)

(＊講演会の詳細は『所報』69号所載の梶研究補助員による報告を参照)

#### IV. その他

国際研が収集してきた未整理の図書の整理・公開については、研究所所蔵の欧文仏教雑誌とデータ・ベースを照合し、欠本や図書館で継続購入している雑誌との重複などについて整理する作業を進めた。

〈ドイツ・フランス班〉

##### I. 翻訳研究

ディートリッヒ・コルシュ教授 (マールブルグ大学神学部) の著書 *Martin Luther: Eine Einführung* の和訳『ルター入門』を宗教改革500周年となる2017年に出版するため仕上げの作業を進めた。

##### II. その他

2010年にフランス国立高等研究院 (EPHE) の宗教社会学部門 (GSRL) と開催したシンポジウム「フランスと日本におけるナショナル・アイデンティティと宗教」の成果刊行について GSRL のボルチエ教授に進捗状況を確認した。

〈東アジア班〉

##### I. 研究会

中国社会科学院歴史研究所との学術交流協定に基づく研究活動として2回の研究会を開催。

(1) 2016年11月16日(水)に中国社会科学院歴史研究所より2名の研究者を招聘し、響流館4階真宗総合研究所ミーティングルームにおいて研究発表および討論を行った。それぞれの発表者と発表テーマの以下の通り。

- ① 趙 凱（中国社会科学院歴史研究所社会史研究室副主任、副研究員）  
 「“茲杖靈木、以介眉寿（このれいぼくをつえつき、もってびじゅをたすく）” — 出土物からみた秦漢時代の用杖習俗」
- ② 康 鵬（中国社会科学院歴史研究所宋遼金元史研究室助理研究員）  
 「Sharaf al-Zamān Tahir Marvazi の書中における契丹の“都城” — 遼代の中  
 西交通ルートの検討を兼ねて」
- (2) 2017年3月7日(火)に大谷大学より2名の研究者が中国社会科学院歴史研究所を訪問し、研究発表および討論を行った。それぞれの発表者と発表テーマは以下の通り。
- ① 井黒 忍（大谷大学准教授）「近世・近代華北の水利権売買に関する一考察：山西・陝西・河南の事例に基づいて」
- ② 濱野亮介（大谷大学任期制助教）「明代民間宗教儀礼における「瑜伽（教）宗」」

## 西藏文献研究

### 1. チベット語文献の電子テキスト化・画像デジタル化とその公開

以下の文献の電子テキストを研究班のホームページ上に公開した (<http://webl.otani.ac.jp/cr/twrpw/results/e-texts/sherapjinba/>)。

ニマ・タンパ = シェーラブ・ジンバ『中観学説決択集』（蔵外 No. 13949～13954）

また、以下の稀覯文献のテキスト公開・出版に向けた作業をおこなった。

シャクリンパ『プラサンナパダー注』（蔵外 No. 13964）

### 2. モンゴル国立大学との共同研究

U.エルデネバト先生（考古学）と M.ガントヤー先生（仏教学）を招き、共同研究を実施するとともに、公開講演会を開催した。詳細は、『所報』No. 69 (p. 31) 参照。

また、モンゴル国ウブスハンガイ県ハラホリン郊外にある仏塔遺跡の表面計測調査のため、嘱託研究員・山口欧志氏を派遣し、現地調査と計測作業を実施した。詳細は、『所報』No. 69 (p. 23) 参照。

### 3. パーリ語貝葉写本のデジタル化

タイ中部地域の王室寺院所蔵未整理写本所在リストの整理作業を行った。その作業で確認され本学所蔵写本と関連する稀覯文献の検討と撮影作業のため、タイに清水洋平・舟橋智哉（ともに当研究班嘱託研究員）の両氏を派遣した。詳細は、『所報』No. 69 (pp. 22-23) 参照。

2015年度に実施した公開ワークショップの成果の一部を、清水洋平氏が第30回パーリ学仏教文化学会（2016年6月4日、於：愛知学院大学）で発表した。

2016年12月15日～16日には、布等の分野の専門家（佐藤留実 = 五島美術館、原

田あゆみ＝九州国立博物館）と共に、本学所蔵写本と包み布の調査・研究を行った。

東洋文庫所蔵パーリ語貝葉写本調査のため、清水洋平・舟橋智哉の両氏を派遣した。

#### 4. 寺本婉雅関連借用資料の整理

村岡家・宗林寺両資料に対する総合的な評価を取りまとめ、『研究紀要』No. 34 (pp. 1-19) に寄稿した。

#### 5. 海外の研究者・研究機関との交流

ノルウェーのベルゲン大学で開催された第14回国際チベット学会に三宅が、中国・北京の中国蔵学研究中心で開催された第6回北京国際チベット学セミナーに嘱託研究員ツルティム・ケサン（白館戒雲）氏が参加し、それぞれ研究発表を行った。詳細は、『所報』No. 69 (pp. 21-22) 参照。

中国蔵学研究中心との研究交流に向けた話し合いのため、上野牧生研究員と三宅を北京に派遣した。詳細は、『所報』No. 70 (pp. 22-23) 参照。

### ベトナム仏教研究

本研究は、ベトナム社会主義共和国のベトナム社会科学アカデミー宗教研究院（以下、「宗教研究院」）との間で締結された協定に基づき推進する共同研究である。

昨年度より進めてきた『日本仏教概説』については、執筆状況の確認と意見交換を継続的に行ない、日本語原稿の大半が揃うにまでなった。現在も継続して執筆者との連絡を取り続けている。

宗教研究院トゥアン院長（当時）によって著された『ベトナム仏教史』の日本語訳作業も、大西和彦（嘱託研究員）の協力によって、大きく進展した。

また、織田顕祐（研究代表者）がベトナムを訪れて、2016年8月24日(水)～25日(木)には、大西和彦（嘱託研究員）の同行を得て、トゥアン院長（当時）をはじめとする宗教研究院の人々と打合せを行ない、「概説」の進捗状況の報告・確認とともに今後の研究の進め方について意見交換を行なった。その後、現地の仏教寺院をいくつか調査するとともに、ベトナムの仏教状況を表す書籍を現地書店において購入することができた。

さらに、ベトナム仏教の基本典籍である『禪苑集英』の読解を、宮嶋純子（現嘱託研究員）の協力の下に開始し、継続的に研究会を進めている。この書はベトナム仏教において中心的と考えられてきた高僧についての伝記を集めたものであり、極めて重要な書物である。しかしながら、本書についての研究は、これまで日本ではほとんどなされていない。この書の読解によって、日本におけるベトナム仏教研究は大きく進展することになる。読解が完了した暁には、本研究所紀

要への発表を予定している。

### 東京分室指定研究

本研究は、宗教において語られる言葉が現実に生きるわれわれにとってどのような働きをもたらすかを、多様な観点から明らかにしようとするものである。以下に、本年度の主な活動を記す。

#### 1. 共同研究発表

各研究員が自らの研究課題を宗教的言語という観点から発表し、それを他の分野の視点から議論・批判するというゼミナール形式の研究会を15回ほど行った。その際、発表者には他分野の者にも理解可能な説明をすることが要求された。

#### 2. 各研究員の活動

##### ●松澤研究員

マイスター・エックハルトのドイツ語説教における言説をラテン語著作における言説と比較しながら、ドイツ語説教における「言葉」の特性について研究を進めている。2016年6月にはドイツに出張し、テュービンゲン大学神学部図書館においてエックハルト・エリウゲナ関連文献に関する調査を行った。また、2017年2月には韓国外国語大学から招待を受け、仏教とエックハルトにおける自己認識についての講演を行った。

##### ●田崎研究員

聖書の翻訳に伴う現地語語彙とのずれや解釈の齟齬によって生じる問題やローカル社会の再編について、関連する先行研究を整理・検討した。夏期にはタイとミャンマーへ長期調査に出かけ、キリスト教の世俗的役割に関するフィールド調査を行い、また教会や神学校で聖書の翻訳や言葉遣いに関する資料を収集した。

##### ●藤原研究員

清沢満之において、彼の言う「自己の信念の確立」の上に「その信仰を他に伝える」ということが、どのような発言として現れたのかについて考察を進めた。特に、当時の社会状況や知識人の発言に対して、清沢がどのような点に着目して応答しようとしているのかを検討した。

#### 3. 海外調査（松澤・田崎・藤原研究員）

2017年2月15日—28日：タイ

チェンマイを拠点とする。宗教によって日常生活が大きく異なるカレン村落でフィールド調査を行い、特にプロテスタント・キリスト教と仏教や精霊信仰の信徒の日常生活の差異について、現地で用いられるカレン語表現を調査。また、社会参加仏教とも称されるタイの仏教が地域共同体の日常生活の中で様々な役割を担っている様子について、参与観察を行った。

## 4. 公開研究会の開催

## 第1回「宗教と人間」研究会

テーマ「柳宗悦と宗教」

日程：2017年2月11日19時～21時

会場：親鸞仏教センター3F 仏間

講師：若松英輔氏（批評家）、大沢啓徳氏（早稲田大学非常勤講師）

## 第2回「宗教と人間」研究会

テーマ「台湾原住民族アミとカトリック信仰」

日程：2017年3月29日16時～18時

会場：親鸞仏教センター5F セミナー室

講師：岡田紅理子氏（上智大学大学院・博士課程）

## 大正新脩大蔵経テキストデータベース（SAT）現代語訳研究

本研究会は、東京大学の下田正弘教授を議長とする大蔵経研究推進会議を中心に進化発展を続けている大正大蔵経テキストデータベース（SAT）に新たに現代日本語訳データを付加していく事業に対して、大谷大学から協力するための研究会として2016年度初めに発足した。事業が本格化する前の試験的な現代日本語訳として、2016年度は『歎異抄』（大正蔵 No. 2661）を3名からなる大谷大学SAT現代語訳チームが担当した。具体的には、仏教伝道協会の英訳大蔵経（BDK English Tripiṭaka）所収の坂東性純先生とハロルド・スチュワートによる『歎異抄』英訳（Shōjun Bandō, Harold Stewart, trans., *Tannishō: Passages Deploring Deviations of Faith*）を、「中学生でも理解できる平易な現代日本語に翻訳する」という方針で英文テキストの和訳を進めた。まず真宗学科の修士課程第一学年の和田良世と博士後期課程第三学年の東真行（所属はいずれも当時）が分担して少しずつ下訳を準備し、真宗学科教員（井上）を加えた3名で定期的に研究会を開いて訳語・訳文について検討して確定して行く形で勧めた。年間で17回の研究会を実施し、最終的に英訳『歎異抄』からの現代日本語訳を完成してSAT事務局に提出した。

仏教聖典（主として漢訳経典）をその英訳から現代日本語に翻訳する目的は、仏教語を出来る限り平易な日本語にすることにあるものと思われるが、原文が日本語古文の『歎異抄』の場合には、英文として自然に読めるように英訳されているものを忠実に和訳しても、日本語として分かり易く自然な表現になるとは限らない。かえって古文の原文からは離れてしまう場合があり、一貫した方針で現代語訳することは困難であった。今後、大正大蔵経所収の他の真宗関係文献についてもBDK English Tripiṭakaからの現代日本語訳というかたちで事業が継続する場合には、改めて英訳から日本語訳するという方法について、その意図と方針を明確にする必要がある。